南 一 弘の

街を行く

第110回 東京タワー Tokyotower

この中に街再生のキーが？

新しい街と古い街、古い街というのは良い表現と言えないかもしれませんが、何でも新しければ良いとは限りません。幾年経ても輝く街は沢山あります。では、古く輝く街の“光”の元とは何でしょうか？

慣れ親しんだ良さだけでなく、異彩を放つ新しい建物が長い年月をかけて風景に溶け込み、さらに街そのものを表すほどになった「シンボル」の存在が大きいと思います。実際、古き良き建造物を遺し、街の象徴、観光の目玉とするケースは沢山あります。しかし、そのほとんどは、街のかつての繁栄ぶりがうかがえる遺物を細々と受け継いでいるだけというのが現状です。今回は新しきものと古きものの好対照として「東京タワー」（タワー）と「スカイツリー」（ツリー）を挙げてみたいと思います。

どちらが良いとか悪いとかではなく、それぞれの個性で人気を集めています。ツリーの高さや付帯設備の充実ぶりから、テレビ塔としての現役を退いたタワーの今後が一時心配されましたが、今も立派に人気者としての地位が維持されています。ロケーションは東京の中心で観光客（最近は海外からの訪問客が多い）が訪れやすい側面もありますが、パリのエッフェル塔の様な美しい外観も大きな集客要素となっているのでしょう。また、現代を代表するツリーの建築に対してレトロ感溢れる建築がその存在感を強めたのかもしれません。

そう考えると、新しい者の出現で、古い者の良さが見直されたとも言えます。古さのみに価値をみたら単なるレトロ建造物です。さらに歴史のある建造物は奈良や京都に行けばゴロゴロあるのですから。必要なのは、新しい者の刺激を受け、次の世代でどう生き残るかを考える工夫です。レトロだけではその人気は長続きせず次第に飽きられるし、リピート客も望めません。かといって新しい物への迎合だけでは、その存在意義まで揺らいでしまいます。

さまざま思索してきましたが、小生の答えはまだ見つかっていません。しかし、このタワーの中にこれからの街づくりのヒントが隠されおり、それが街の再生に役立つのであればとことん追求したいと思います。

このように、今年はただ単に街を訪れるのではなく、「再生」というキーワードを考えながらゆっくりと歩いてみたいと思います。少子高齢化は避けてはいられない現実ですが、それを理由に諦めていたのでははじまりません。誰もが唱えて誰もが解決できないことではありますが、微力ながらも頑張りますので応援をお願いします。また、この街を訪ねたらよいというご意見があればドシドシ編集部までご連絡ください。お待ちしております！

東京の街を映すうえで必要不可欠な存在「東京タワー」

南 一弘

1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発（旧松下興産）の代表取締役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役に就任。